

中学校区におけるめざす子ども像 「人から信頼され、何事も徹底してやりぬくたくましい子」の実現へ向けて ・小中をつなぐ学力を身につける。 ・自信をもって、主体的に行動する。										堺市立福泉上小学校										
校長 那賀 典仁																				
令和6年度 重点目標「確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和のとれた児童の育成」 ①「文武両道」を目指して ―「勉強と運動」にしっかり取り組む姿勢を育む ②「思いやり・やさしさ」を目指して ―「あたためたい気持ち」を持った子どもを育てる ③「ABC作戦」の実践 ― A:あいさつ、B:ベル着(チャイム着席)、C:クリーン(掃除)を実践できる子どもを育てる																				
確かな学びの現状 昨年度に引き続き、静謐な雰囲気の中、子どもたちが真剣に学習に取り組む学習環境づくりを進めた。 本校は昨年度の各種学習調査の算数科「計算領域」において、大阪府の平均を上回っている項目が多く、朝の学習や算数チャレンジなどの取り組みの成果が表れてきている。一方で、高学年になるにつれ、算数科に対して苦手意識をもつ子どもが増えている。 また、国語科では、「話すこと・聞くこと」分野の問題において平均を上回っており、校内研修で「聞き方」「話し方」についての指導に取り組んできた成果が見られる。しかしながら、「書くこと」の領域に課題が見られる。基礎基本の定着・反復練習を更に取り組んでいく必要がある。これまで以上に学びに向かう姿勢をいかに養成できるかと読書意欲が多いため、アンケートの結果を基に「読書」に取り組む環境										豊かな心・健やかな体の現状 学習の時間や休み時間の様子を見ると、年々本校の重点目標の一つである「思いやり・やさしさ」を感じる言動や行動が増えてきていることが感じられる。その一方で、教育アンケートの結果からは「学校へ行くのが楽しい」「クラスのみんなと仲良く過ごしている」の項目で肯定的ではない回答が1割程度あることが課題と捉えている。休み時間や体育時の児童の様子から、体を動かすことが好きな児童は、年々、増えてきているように感じる。それは、全校児童で行うかけ足月間やなわとび月間など体育的行事に取り組んできた結果、日常でも多様な動きが増えてきたのではないかと考えている。しかし、近年の体力テストの結果では、全ての種目においてコロナ以前の記録を下回っているため、克服に向けて取り組みたい。										
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (10月)	達成状況(年度末)												
								自己評価						学校関係者評価						
確かな学び	基礎基本の定着	「話し方」「聞き方」「ノート」名人の更なる活用。	○「聞き方」に関しては、クラスの実態に応じて、 ・なぜ「聞く」ことが大切なのか ・どのように聞くのがよいのか(聞き方の中身) ・聞きやすくなるための工夫をどのようにするのか(机配置:コの字型など) などを、クラス児童としっかりと話し合い、合意形成する中で、聞く力の育成に努める。 ●学習過程がわかる板書づくりを通して、児童	学習のふり返りアンケートで各項目において80%以上の肯定的評価。	学習のふり返りアンケート	毎学期	◎	これまで同様、学習への取り組み姿勢がしっかりとできている。 少人数指導や、家庭学習においても実態に応じた取り組みができています。 その反面、自主学習ノートにおいては、マンネリ化している部分があるので、ノート表彰(掲示)を強化するなどの手立てを考えている。	◎	●学習のふり返りアンケートの結果から、「話すこと」「聞くこと」など全ての項目に対して高水準で肯定的な回答であった。特に、「聞くこと」は約96%と高い定着率を示していることから、学習への取り組み姿勢がより定着してきている。 ●各種アンケート結果から保護者・児童ともに80%以上の肯定的な回答があったことから、これまでの家庭学習の啓発の成果が表れている。 ●今年度も自主学習ノートを活用することができた。自主学習ノートを児童や保護者が見れるように掲示することにより、児童が意欲的に自主学習に取り組む動機付けができています。 ●保護者・児童ともに教育アンケートにおいて80%以上の肯定的な回答が得られた。引き続き、きめ細やかな指導体制を整えていきたい。	4.9	・読書する環境が整ってきていると感じる。図書館にも児童の興味関心のある本が増えた。 ・自主学習ノートの取り組み自体はよいことだが、児童が進んで取り組めるような手立てなどをもっと工夫して欲しい。(頻度をあげてほしい。) ・クラスを分けての少人数指導など、よく指導ができています。								
		『「家庭版」学びの手引き』の活用	○家庭学習の充実を図るために、『「家庭版」学びの手引き』を活用して、児童や保護者への啓発を定期的に行い、家庭学習の充実をめざす。				◎		◎	4.9										
		自主学習ノートの活用推進	●全学年で活用している自主学習ノートを推進することで家庭学習の充実を図る。	教育アンケートで80%以上の肯定的評価。	教育アンケート	年度末	○		○	4.3										
		算数科における少人数指導の充実	○5・6年生算数科において、担任と少人数担当教員による少人数指導を行い、個に応じたきめこまやかな指導をめざす。	少人数指導アンケートで80%以上の肯定的評価。	少人数指導アンケート	年度末	◎		◎	4.9										
	授業改善	授業前後のあいさつと教室環境整備の徹底	★授業開始前と後に号令をかけ、しっかりとあいさつをし、授業に対する集中力を高める。 ★授業前に教室内の机を列ごとに揃え、ごみを拾う。常に環境整備に全員で努める。	教育アンケートで80%以上の肯定的評価。	教育アンケート	年度末	◎	本校の学校目標の一つ「ABC作戦」について学級などでの啓発などに行っている。 ・子どもたちの中で「正しい挨拶の仕方」が定着してきている。すべての子どもが「わかる」「できる」授業づくりをめざして、今年度より新たな研究テーマ「探求力」の育成を掲げて全員公開授業をするなど、授業力の向上に努めているが、「探求力」の解釈が難しく学校をあげての研究としては課題がある。	◎	●90%以上の児童から、挨拶ができています、そうじや当番活動ができていますという回答が得られた。次年度以降も引き続き、学習活動に取り組んでいく環境を整えていくため推進していきたい。 ●「表現力」に重点を置き、子どもたちが自己の考えを表現できる手立てを授業の中で取り入れた。また、友達の見聞を聞き、考えを深める工夫として、ペア・グループ学習を授業の中で積極的に取り入れることができた。 ●今年度は、各学年で計6回の授業研究を実施し、研修を深めることができた。来年度は、今年度の研修を受けて、教員の共通理解のもと、授業研究を発展させ、取り組んでいきたい。	4.6	・タブレットを活かした学習が進んできているように感じる。 ・登下校時や参観時など、顔を見たとき、よく挨拶ができています。 ・積極的に意見を出す姿がよくなった。								
		すべての子どもが「わかる」「できる」授業づくりの実践(全教科を通して)。	●主体的・対話的で深い学びにより、児童が意欲的に学習に取り組めるようをめざす。 ・各授業の「目的」「内容」「方法」、各領域内における系統性を明確にした授業づくり。 ・ペア・グループ学習の積極的な活用。 ・学びのコンパス・堺STEAMの積極的な活用。	各学年において研究授業を実施。	事後討議会	毎月	○		○	4.7										
		自分の考えを持ち、表現できる子どもを育成する。	●学習課題の解決に向けて、主体的に学習に取り組む、自分なりに考えた方法や答えを自分なりに、表現できる力の育成をめざす。 ○学習のふり返り(感想文)の活用。 ・ふり返りの評価方法 ・ふり返りの授業における活用の手立て	各学年において研究授業を実施。	事後討議会	毎月	○		○	4.6										
	豊かな心・健やかな体	人権教育の充実	人権についての認識と理解を深め、豊かな人権感覚をもって行動する子どもを育成する。	○人権教育の研究授業を実施する。研究授業を校とし、校内人権教育の充実を図る。 ●なかよし活動を通して、互いに協力し合える仲間づくりを進める。 ★子どもも理解に基づく指導及び、予防と育成に重点をおいた生徒指導の充実を進め、いじめを防止する。	人権教育の研究授業を実施。 なかよし活動を通して、友達のをよさを認めることができる。 教育アンケートの項目において昨年度を上回る。	事後討議会 実践報告 教育アンケート	研究授業時 年度末 年度末	◎ ◎ ◎	人権教育に関する研究授業を3学期に実施する予定である。 なかよし活動や上っ子まつりなど、リーダーの育成や仲間づくりの場を設定している。 いじめ防止の観点では、朝礼や学級指導で、啓発活動を進めている。	○ ◎ ◎	●人権教育の研究授業を行い、校内人権教育を深める取り組みを行った。来年度は更に深められるよう、研究授業の実施の仕方を検討していきたい。 ●なかよし活動を通して、仲間づくりを進めることができた。 ●朝礼や学級指導で、定期的にいじめ防止に関する啓発活動を進めることができた。	4.8 4.9 4.9	・友達関係がよい、仲が良いという話をよく聞く。 ・なかよし活動の取り組みを今後も続けて欲しい。 ・縦割り活動が素晴らしい。							
			体力向上	持持久走記録会を目標とし、全校かけ足月間での校内での取り組みの更なる充実を図る。 ●なわとび検定を目標とし、なわとび月間での校内での取り組みの更なる充実を図る。	持持久走記録会でのタイムを前年度と比較する。 各学年で目標とされているなわとび検定の級の合格者を前年度より増やす。 学習開始時と学習終了時の泳法の理解度を比較する。	持持久走記録会 なわとび検定 水泳についての学習	持持久走記録会後 なわとび検定後 水泳学習後	◎ ◎ ◎	全学年でのかけ足・本校独自のなわとび検定・水泳授業に力を入れている。全ての活動において、計画的に取り組むことができ、全学年が意欲的に参加することができた。	◎ ◎ ◎	●持持久走記録会・なわとび検定の結果から、全校かけあしや休み時間の取り組みなどがあり、記録が伸びた。水泳授業は、前年度同様に、学年の計画的に行うことができた。これらの結果から、今年できたことを継続して行ってい、児童が運動する機会を十分に確保し、計画的に取り組んでいく。	4.7 4.9 4.3	・コロナ禍で低下した体力が向上するよう、頑張っている。 ・なわとび検定の前になると、放課後に練習している姿を近所で見かける。よい取り組みだと思う。 ・運動が得意ではない児童も楽しんで意欲を持てる取り組みを、今後も工夫して、続けていって欲しい。							
				地域協働	静謐な教育環境で「総合的な学力」を育み、地域とともに歩むチーム学校づくりを進める。	○あらゆる教育活動の場で、自尊感情を醸成し、わかりやすい授業と自己実現を支援する授業・学級経営に取り組む。 ●学校ホームページ、校報などを活用し、教育活動の現状と成果の発信や、地域行事への積極的な参加に努める。	教育アンケートの項目において昨年度を上回ったり、ABC作戦の達成状況を確認したりする。 学校ホームページを毎日更新したり、地域行事への参加状況を確認したりする。	教育アンケート実践報告 実践報告	年度末 毎月	◎ ◎	公開研究授業や教科研修により、授業力向上の傾向がみられる。 ABC作戦が全ての学級で達成できている。 学校だより、学年通信、ホームページで教育活動の発信を定期的に実施できている。	◎ ◎	●教育アンケートの関係項目において前年度と同様(85%以上)もしくはそれ以上の肯定的な評価があり、ABC作戦においても多くの学級で達成できている。 ●今年度は、各学年の学習の様子や校外学習など、様々な場面の様子を発信することができた。今後も学校での様子を発信していけるようにしていきたい。	4.9 4.9	・地域で児童を応援していきたい。様々な発信を今後もお願いします。 ・HP楽しみに見えています。各学年がもっと様子を発信してくれると嬉しい。					
		校長より(年度末) 読書活動環境については年々改善されている。図書室の利用も多く、子どもたちの読書意欲に関しても活発に行っているが、アンケート結果では自己意識が低いことがうかがえる。引き続き、読書(読み聞かせ)をする楽しさを伝えていく。自主学習ノートの活用については、広域に解釈し、教科の域をこえた学習を積極的に行うことも、総合的な学習につながると考えられる。「学びのコンパス」に沿った学習環境を今後も整え、何より子どもたちが学習することが楽しいと思える授業改善をしていくことを行っていく。										学校関係者評価者から(年度末) ・上っ子まつりや、6年生を送る会を見せてもらったが、大変いい取り組みだと思った。児童の縦のつながりを感じることができ、今後も続けていって欲しい。 ・支援を要する児童に対する対応について、保護者の学校理解(児童理解)が進むように、推進活動などに取り組んで欲しい。不登校児童への対応を進めて欲しい。 ・地域と学校、保護者が連携をしてよりよい児童を育てていくために今後も協力していきたい。 ・登下校路の再検討をしてほしい。								